

分科会	小5年	郡市名	岡崎
提案者	岡崎市立矢作中学校		山本 磨生

社会に参画していこうとする子どもの育成をめざし、仲間とかかわりながら問題の解決を図る社会科の授業
—5年 「情報化した社会とわたしたちの生活」の実践を通して—

1 はじめに

岡崎市社会科部では、研究主題を『社会に参画していこうとする子どもの育成をめざし、仲間とかかわりながら問題の解決を図る社会科の授業』と設定し、研究主題を次のようにとらえた。

社会に参画していこうとする子ども

あらゆる情報があふれている昨今、子どもたちには情報化社会との上手な付き合い方が必要となる。そのためには、様々な立場から情報化社会について考え、よりよく生活できる社会の形成に向けて主体的に参画していく姿が要求される。本研究では、子どもが実際に番組作りを行い、番組を制作する人たちの思いや苦勞にふれる中で情報との付き合い方を自覚し、進んで活動する姿を追求する。また、地域の素材を取り入れた番組作りをすることで、地域の人や物に積極的にかかわろうとする姿を実現する。

仲間とかかわりながら

「仲間」とは、共に学び合う学級の子どもたちだけでなく、学びを通してかかわるすべての人のことを意味すると考える。すなわち、「仲間とかかわる」とは、「学習の対象となる人の話を聞いたり、友達と話し合ったりして、学びを深める」ととらえる。本研究では、番組作りの過程で、岡崎のケーブルテレビ「ミクス」の方々から得た情報をもとに番組作りへの自分の考えを構築し、友達と話し、考えを深めながら番組を完成させていく。

問題の解決を図る

「問題の解決を図る」とは、「子どもが身近な社会事象にふれたときに生まれる疑問を、話し合いなどにより、自分たちで道筋を立ててはっきりさせていく」ととらえる。本研究では、番組作りの過程で生じる様々な疑問や問題点の解決策を各グループで練り、さらに学級全体に広げて考える過程を重視する。

昨年度の研究（4年「変わってきたわたしたちの羽根学区」）では、次のような成果が得られた。

身近な社会事象（土地区画整理事業）を取り上げ、出あわせ方を工夫したり、未来の学区について考えたりすることで、子どもたちは切実感をもちながら意欲的に学習に取り組むことができた。また、資料の読み取りや地域の人への聞き取り調査を行うことで、自分の考えの根拠を明確にした話し合いをすることができた。しかし、子どもたちがより積極的に地域に社会参画していこうとする態度の育成には課題が残った。これらの成果と課題を踏まえ、本年度は「社会に参画していこうとする子どもの育成」を重点課題として、2年次の研究を進めた。

2 研究の基本的な考え方

（1）単元の設定理由

昨年度の成果と課題から、社会参画をしていこうとする態度を育成するための活動を取り入れて研究を進めていきたいと考えた。そこで、子どもたちの身近にある「テレビ番組」を教材として、5年「情報化した社会とわたしたちの生活」の実践の中でテレビ番組制作に取り組むことにした。

視聴者である子どもたちは、普段何気なく情報を見たり使ったりしている。そこで、テレビというメディアを通して、情報が伝えられる様子に目が向けられるようにしたいと考えた。テレビ番組作りを進める中で、情報を正確に伝えるための努力や作った番組が視聴者に受け入れられるための工夫など、情報を発信する側の責任と苦勞を肌で感じさせたい。子どもたちは情報を発信する側の思いを知ること、視聴者として情報を受け取る側の責任や情報を正しく活用する意識をもつことができると考えた。

（2）目指す子ども像

- ・自らの目標と問題意識をもって、意欲的に追究していこうとする子ども
- ・仲間とかかわりの中で、新たな見方や考え方に気付き、仲間の考えを受け入れながら共に活動していくことができる子ども
- ・番組作りを通して、地域の一員として活動することのすばらしさを感じ、地域社会に一層の愛着をもつ子ども

(3) 研究の仮説

目指す子ども像に近づくために、次のような仮説を設定した。

仮説 1

子どもたちにとって身近である「テレビ番組」を教材化し、テレビ番組にかかわる人の思いにふれたり、グループに分かれて番組を構成したりすることにより、番組作りに対する意欲を高め、一人ひとりがより主体的に追究していくことができるだろう。

仮説 2

番組の構想や内容を考える段階で、グループごとの考えを学級全体で共有する時間を設定することにより、他者の考えにふれながら新たな見方や考え方に気づき、学習課題に対する考えをさらに深めていくことができるだろう。

仮説 3

グループでの考えや番組の方向性を話し合う場を設けたり、視聴者の感想を聞く機会をもったりすることにより、子どもたちは自分の考えを見つめなおし、情報を発信する側の役割を経験することを通して、地域社会の一員として活動するすばらしさや喜びを感じることができるだろう。

① テレビ番組にかかわる人の思いにふれる（仮説 1）

どのように番組が作られているのかを知るために、ミクスの見学を設定する。また、番組作りへの思いと責任を感じ取り、番組作りに対する意欲を持続できるように、ミクスで働いている方の思いを聞いたり、制作途中にアドバイスをもらったりして、実際に番組制作をしている人と関わる機会をもつ。

② グループ活動を取り入れ、主体性を高める（仮説 1）

子どもたちが自己解決していくための具体的な方法を考え、実行していく過程で、一人ひとりがより主体的に活動でき、個々の意見がより反映されるように、7、8人のグループに分かれて番組の制作に取り組むようにする。

③ 個々の考えを学級全体で交換する場を設ける（仮説 2）

個人やグループの考えや番組内容の構想などを聞きあい、自分の考えと比較できるように、各グループの考えや途中経過を発表し、学級全体で吟味し合う時間をもつ。

④ グループの番組内容を検討する「番組会議」の時間を設ける（仮説 3）

グループの番組の方向性や個々の考えを伝え合うことを通して、地域の良さを伝える内容になっているかどうかを検討できるように、授業の始めに番組会議を開くようにする。

⑤ 活動を振り返る場を設定する（仮説 3）

情報を発信することの意義を実感できるように、自分たちの目標やテーマと照らし合わせながら活動を振り返ったり、完成した番組を校内放送で流して全校児童・教員から視聴者としての感想を聞いたりする機会を設ける。

(5) 抽出児童の設定

①児童 A（以下.....部）

何事にも意欲的に取り組み、自分の考えを自信をもって発表することができる。日ごろから、人のために何ができるかを考えられる児童である。その一方で、自分の考えに固執するあまり、他の意見を受け入れられない時もある。番組作りをする中で、仲間の意見を尊重し大切にしながら、自分の考えを深めることができるようになってほしい。また、番組作りを通して、積極的に地域とかかわっていく姿を期待する。

②児童 B（以下.....部）

誠実で優しく、友達から信頼を得ている。物事を深く考え、根拠のある考えをもつことができるが、自分の意見を発表することは少ない。番組会議や学級全体での話し合いの際に活発に意見を言えるようになってほしい。

また、抽出グループとして、児童 A、B が所属するグループを設定し、変容を追う。

(6) 単元の目標

- ・マスメディアとしてのテレビに興味をもち、番組制作を意欲的に進めようとする。（関心・意欲・態度）
- ・番組を制作する側として、情報を正しく、分かりやすく伝えるための方法を考え、表現することができる。（思考・判断・表現）
- ・番組を制作する過程において、伝えたい内容を正確に伝えることを意識して、番組内容を構成することができる。（技能）
- ・テレビ番組が多くの人々の努力や工夫によって作られていることを理解することができる。（知識・理解）

(7) 単元構想 (17時間完了)

子どもの活動 (学習課題) ◇学習内容 ・子どもの意識	教師の活動
<p>テレビの役割はなんだろう (1) (2)</p> <p>◇テレビに関わる経験を出し合い、テレビの影響力を感じ取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テレビの影響はすごい。 ・普及率も 100%だよ。 <p>◇テレビ番組の特徴を整理する。</p> <p>どのように番組が作られているのだろう (3)</p> <p>◇情報番組を見て、番組の構成を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本当に大変か、実際に見てみたいな。 <p>テレビ局へ行ってみよう (4) ~ (7) …手立て①</p> <p>◇ミクスへ見学に行き、番組作りの行程を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たくさんの機械があったね。 ・岡崎の情報ばかりだね。 <p>テレビ番組をつくってみよう (8~16)</p> <p>◇どんな番組がいいのだろう。…手立て③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・根石のことを広める番組がいいな。 <p>◇番組会議①番組のテーマを考える。…手立て①②③④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・石川さんは「岡崎の人のため」と言っていたね。 ・岡崎の情報番組にするのはどうかな。 <p>◇番組会議②テーマに沿った内容を考える。…手立て②③④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・根石にはたくさんの神社があるね。 ・根石のお店を紹介したいな。 <p>◇番組会議③番組の構成を考える。…手立て②③④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの人に見てもらうには、どんなコツがあるのかな。 ・視聴者が喜ぶ番組にしたいな。 <p>◇取材・編集をする。→総合</p> <p>◇映像に合わせて原稿を作成する。</p> <p>◇取材した映像と、石川さんのアドバイスを聞いて、構成を考え直す。…手立て①②③④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが何を伝えたいのが大切。 <p>◇再取材・再編集を行う…手立て①②③④⑤</p> <ul style="list-style-type: none"> ・番組の構成から考え直したほうがいいかもしれない。 ・分かりやすくするために、いらぬ映像や追加する映像について考えよう。 ・正しい情報でないと放送できない。 <p>◇ミクスで編集・収録作業をする。→総合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テロップによって、視聴者に伝わりやすくなるんだな。 <p>◇ミクスで実際に放送される。</p> <p>◇番組を見た人の感想を聞く。…手立て⑤</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視聴者の立場に立った番組作りが一番大切なんだ。 ・根石学区の良さが伝わってよかったな。 <p>番組作りを振り返ろう (17) …手立て⑤</p> <p>◇情報を送る側の責任について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視聴者の立場に立って、慎重に作っていく必要がある。 ・番組を作るには多くの人の手で多くの時間がかけられている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・テレビの影響力を感じ取れるように、流行語を紹介する。 ・テレビが生活に欠かせないものであることを実感できるようにするために、資料集のグラフより、テレビ普及率が 100%であることに注目するようにする。 ・よく見るテレビ番組を出し合い、それらの番組の役割を考えるようにする。 ・12月に行われた「根石っ子ミーティング」が取材されていることを伝え、見学への意欲を高める。 ・ミクスの石川さんを紹介し、番組作りへの思いを聞く。 ・番組作りにつなげる見学のまとめをするために、ミクスで放送してもらうためには、ミクスの思いをより理解する必要があると伝える。 ・ミクスの地域密着の思いを学級テーマにつなげる助言をする。 ・石川さんの「岡崎の人を楽しませるため」という言葉を常に意識させ、意欲を持続できるようにする。 ・テーマが決まった時点で、石川さんに連絡し、アドバイスをもらう。 ・クラスを四つのグループに分け、各グループで番組を作ることを伝える。 ・必要に応じて、石川さんに電話で質問をする。 ・視聴者の立場に立った考えを称賛する。 ・一度出来上がった映像を石川さんに見せ、石川さんのビデオレターを作成して提示する。 ・他のグループへの意見・質問を出させ、話し合いを促す。 ・各グループでの情報の正確さについて考える時間をもつ。 ・ミクスへ出向き、実際の機械を使わせていただいて編集作業を行うようにする。 ・ミクスで2日間放送されることを伝える。 ・お昼の放送で番組を流し、感想を書いてもらうようお願いする。 ・より多くの視聴者に見てほしいという思いは、どのテレビ局でも共通であることを理解できるようにする。 ・視聴者を第一に考えた番組作りや地域密着の思いに迫るために、制作者側に立って振り返りをする。

3 研究の実際

(1) テレビは何のためにあるのだろう

第1時では、平成25年度の流行語大賞にノミネートされた言葉をいくつか提示した。子どもたちは、その言葉の多くがテレビからの情報であるとすぐに気付き、テレビというメディアの影響力を感じ取った。また、資料集にある各メディアの普及率のグラフからもテレビ番組が100%であることを読み取り、影響力の大きさが事実であることを確認した。第2時では、好きなテレビ番組を出し合い、ランキングをつけた。バラエティ・アニメ・ドラマなどの娯楽物が上位を占めた。そこで、「テレビは何のためにあるのだろう」と問いかけ、役割を考えさせた。「みんなを笑顔にするため」「楽しくするため」「人を喜ばせるため」(児童B)が挙がり、『人を楽しませるもの』と分類された。「テレビの役割はそれだけか」と問うと、他のジャンルについても考え始めた。ニュース番組については、「情報収集」「世の中のことを知るため」(児童A)などが挙がり、『情報を伝えるためのもの』と分類された。その後、「もし、テレビがなくなったとしたら、一番困ることは」との問いかけに、「情報が分からないこと」という答えが多く、テレビの一番の役割は情報を伝えることではないか、という方向に授業が進んだ。児童Aの授業日記からも、情報を伝える側面を重視していることが分かる。**【資料1】**

【資料1】 第2時の児童Aの授業日記

もし本当にテレビがなくなったら、ニュースがないから困るなと思いました。事件が近くでおこっても何も知らなかったら怖いし、世の中のことが分からないからです。

(2) テレビ番組はどのように作られているのだろう

テレビの一番の役割は「情報を伝えること」と捉えている子どもたちに、どうすれば番組の作り方が具体的に分かるのかと尋ねると「テレビ局に見に行けばわかる」という声が出た。そこで、教師が岡崎市のケーブルテレビ「ミクス」を紹介し、見学をすることになった。見学前に「番組作りについて知るために、どんなことを見たり聞いたりする必要があるのか」を考える時間を設けた。子どもの考えを集約すると、①仕事内容・番組作りの流れ②使われる機材③視聴者のための工夫という、3つの観点が出てきた。児童Aは①に関連して「それぞれの仕事にはどんな役割があるのか」、児童Bは③に関連して「視聴者が見るための工夫にはなにがあるのか」と、それぞれ明確な考えをもっていた。特に児童Bはすでに、視聴者の立場に立った気づきがあった。

実際にミクスへ行ってみると、たくさんの機材や、スタジオがあり、様々な発見をした。その発見を、見学の3つの観点についてワークシートに整理させながら見学を進めた。編成部部長を務める、ミクスの番組作りの要である石川さんから仕事内容や番組作りへの思いなどを聞き、質問に答えてもらった。石川さんからは、ミクスは岡崎に根差した番組作りをしているということ、岡崎の人が楽しんでくれる番組作りを一番に考えていることなどを聞いた。石川さんの思いに共感しながら話を聞く子どもの姿があった。見学のまとめでは、石川さんのその思いが、見学の視点「③視聴者への工夫」につながっていることに気付き、ミクスの番組作りには「地域密着」というキーワードがあることを確認した。**【資料2】**

【資料2】 見学後の子どもの考えの一部

③視聴者への工夫

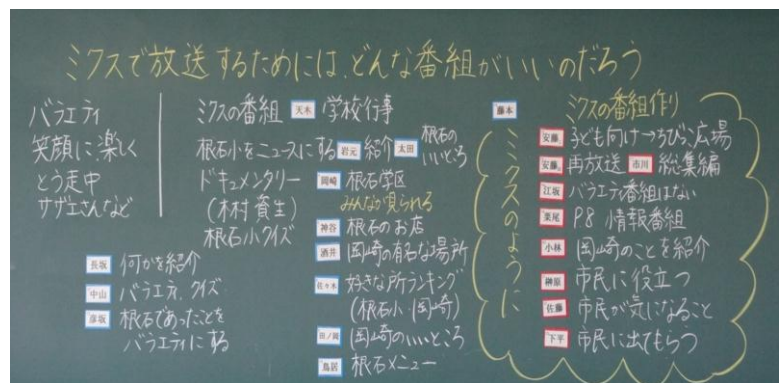
- ・事件や事故は取り上げない
- ・災害など、地域の人に役立つ情報(児童A)
- ・再放送(何度も見れるように)
- ・岡崎のイベントを取り入れている
- ・市民に出てもらおう→テレビに出られる可能性
- ・より身近な情報→専門チャンネル
- ・いち早く情報を伝えられるようにしている(児童B)

(3) 5雪(5年雪組)番組はどんな番組にしたらいいのだろう

ミクスの見学後、見学のまとめをした子どもたちに、「これで番組の作り方がわかったね」と聞いたところ、首をかしげる子どもが多かった。そこで、どうすればもっと分かるのかと尋ねると、「いろいろなテレビ局を見に行く」「テレビ番組をもっとよく見る」などの意見が出る中、「作ってみれば分かる」という意見も出てきた。「そんなことできるわけがない」と言う子どもが多い中、ミクスと連絡をとった。ミクスの協力を得ながら番組を作ることができるようになり、子どもたちの目は一様に輝き、意欲が一段と増した。

まず、番組内容と目指すテーマを考えさせた。話し合いでは、「バラエティ」「クイズ番組」「ドキュメント」などの意見が出る中、「ミクスのように、視聴者の気持ちを考えて作りたい」という発言をきっかけに、ミクスの番組作りや石川さんの思いを振り返った。**【資料3】**。この振り返りによって、「地域密着」を意識した、「ミクスで放送してもらうのだから岡崎のことを放送しよう」となった。内容は、第2時で話し合った、テレビの一番の役割は情報を伝えることについて思いおこし、「根石学区の情報番組」となった。テーマは視聴者の思いを一番に考え、「視聴者が笑顔になれる番組」とした。対象は岡崎に住む子どもから大人までと決まった。児童Bは「根石学区の良いところなど、みんなが見られる番組」と提案し、視聴者目線の考えを他に広げる発言をした。

【資料3】 番組内容検討の際の板書



(4) 番組会議①情報収集をしよう

学級としてのテーマと内容が決まり、グループでの番組制作に取りかかった。各グループでのテーマを決めた後、内容

【資料4】抽出グループの内容の候補

- ・八柱神社 ・白山神社
- ・大泉寺 ・根石小の読み聞かせ
- ・声かけ隊 (PTA) の活動

【資料5】事前調べ後の児童Aの授業日記

他の班は校長先生に聞いて根石小の歴史を調べているけど、インターネットだけではなく、人に話を聞いたほうが情報を細かく知ることができるのでいいなと思いました。

の候補となる情報収集を行った。抽出グループでは、インターネット・本・学校の展示品などから、様々なジャンルの候補が挙がった【資料4】。情報収集を終えた児童Aの感想からは、情報収集の方法を模索しながら調べていることが分かる【資料5】。

(5) 番組会議②番組の内容を考えよう

次に、各グループでの内容決定の段階に入った。内容決定の際には「視聴者」「発信する側」「取材先の特徴」の3つに注目して話し合いをするように伝えた。児童A、Bが所属するグループでは、視聴者の立場に立って番組の内容を話し合った【資料6】。

【資料6】グループでの番組会議の様子

- C1 たくさん紹介したほうが視聴者はうれしいから三つ(読み聞かせ・PTA・八柱神社)がいいと思う。
児A でも三つだと一つ一つは詳しくないから楽しめないと思う。
C2 三つのおもしろい。ほら(クラスの目標を指さして)視聴者が笑顔になる。
C3 三つの関連性がない。
児B でも別々ならいろんな人に興味を持ってもらえる。
児A それはよくわかるんだよね。確かにそうだと思う。いろんなものがあつたほうがいい。でも…
C4 一つ一つが短すぎるとしっかり伝わらない。視聴者に疑問が残っちゃう。決まった時間に十分に収まらない。
C5 三つだとしっかり伝わらない。
児A でも、すみからすみまで伝えてもおもしろくないと思う。
C6 興味をもってもらうのがぼくたちの目標だから、詳しくすぎないで三つがいいんじゃない。
児B それか、二つをくわしくやって、あと一つはおまけにするのは。
C7 それなら三つだからいい。
C8 学校のこと(読み聞かせ・PTA)と学区(八柱神社)に分けるのは?
C9 どれがおまけ?
C10 メイン二つを学校でおまけを学区にしたら分かりやすい。
児A 視聴者にはそれがわかりやすいかもしれない。

どの考えにも「視聴者のために」という目標があり、これは学級全体の「視聴者が笑顔になる番組」というテーマを受けたものである。また、C6の「興味をもってもらうのがぼくたちの目標」というのは、このグループ自身の「視聴者が興味をもって、分かりやすい番組」という目標からのものである。さらに、C2「決まった時間に収まらない」は発信側の視点である。それぞれの発言には、子どもたちなりの番組作りへの思いがあることが分かる。児童Aは自分のこだわりをもちながらも、友達の考えを受け入れている。結果的に児童Bの折衷案でグループ全員が納得した。

【資料7】を見ても、話し合いに満足し、友達とともに番組を作ろうとする児童Aの思いが伝わってくる。また、児童Bの授業日記からは、自分の意見が言えたことに自信をもつとともに、次への活動への意欲がうかがえる【資料8】。

(6) 伝えたいことが本当に伝わっているのだろうか(学級全体での話し合い)

各グループの取材・編集活動が進む中、制作途中の番組を見合う時間を設定した。事前にミクスの石川さんにすべてのグループの番組を見せ、ビデオレターという形でアドバイスをいただいた。授業では、「伝えたいことが本当に伝わっているのか」という課題で、一つのグループの番組を全員で見て番組検討会を行った。子どもたちは良いところを中心に発表し、検討対象になったグループも「伝わったと思う」と発言した。しかし、石川さんからは「放送できません」と伝えられ、一様にショックの顔を見せた【資料9】。

石川さんのアドバイスから、「どうしたらよりよい番組になるのか」という課題で、①良さを伝える工夫と②飽きない工夫について考えさせた。話し合いでは、児童Aは①良さを伝える工夫について、「まず自分たちが明確になっていない」ことに気付いた。この意見には他の子どもたちも納得し、自分たちが思う、地域の良いところを明らかにすることが、学級全体の課題となった。また、児童Bは飽きない工夫について「問

【資料7】番組会議後の児童Aの授業日記

内容を決定するのに二つか三つでだいぶもめました。でも、それぞれ納得のいくきちんとした理由があります。自分の意見もあるけど、私は納得いきました。いい番組会議ができました。

【資料8】番組会議後の児童Bの授業日記

今日は内容きめの話し合いをして、しっかり自分の意見を言うことができたのでよかったです。内容が決まって、次のステップに進むので、いい番組が作れるように前よりもさらに頑張りたいです。

【資料9】石川さんのビデオレター

残念ながら、この映像だと公共の電波として放送することができません。それは、みんなが思う「根石の良いところ」が伝わってこないからです。また、この映像では、関心をもって見続けることができません。ほとんどの人は飽きてしまいます。

いかける言葉を使う」ことを提案した。これは、児童 B がずっと持ち続けている、視聴者への意識の現れである。石川さんの言葉に、児童はさらにやる気を出して取り組みだした。

石川さんのアドバイスを受けて、情報を送る側の厳しさを感じることができた。また、自分たちの番組には工夫すべき点があることに気付くことができた。そして、それは子どもたちの視聴者への意識をより高める課題となった。

(7) 良さを伝える工夫・飽きない工夫を考えよう

前時の話し合いでの子どもたちの考えには根拠に乏しく、また、この二つの観点で考えをもつための素地がないと感じた。そこで、「①良さを伝える工夫②飽きない工夫」について、実際のテレビ番組から調べる活動を行った。各自、様々な番組を見て、二つの観点に沿ってその番組の良さを調べた【資料 10】。

【資料 10】 一人調べから得られた番組の良さ

- | | |
|---------------------------------------|-------------------------------|
| ①良さを伝える工夫 | ②飽きない工夫 |
| ・レポーターが感想を言っ
て良いところを伝える。
(児童 A) | ・質問や、問いかけを
する。 |
| ・実際に行ってみる。 | ・字幕を入れる。 |
| ・視聴者に伝わる言葉
を考える。 | ・共感できる内容に
する。 |
| ・何がいいのかの理由
を言う。 | ・誰が見ても分かる
たとえを使って説
明する。 |
| | ・視聴者が驚くこと
を映す。(児童 B) |

【資料 11】 児童 A の授業日記

実際の番組を見て考えると、どの番組にも良さを伝える工夫と飽きない工夫があるのは確かだった。

【資料 12】 児童 B の授業日記

テレビをじっくり考えて見ていると、いろいろな工夫がしてあり、見つけたので、もっといい番組にするための工夫を
実行したいです。

実際に調べてみると、児童 A の授業日記のように、どの番組にもこの二つの工夫がみられ、石川さんのアドバイスを実感して納得することができた【資料 11】。児童 B は【資料 12】のように「工夫を実行したい」と書いたが、児童 B に具体的な工夫を聞くと、明確な返事がなかった。これは児童 B だけでなく、学級の児童に共通する状況だと感じ、再度番組会議を開いて各グループの具体的な工夫について話し合うことにした。

(8) 番組会議③改善点を見付けよう

石川さんのアドバイスは、番組会議での検討の質を高める良いきっかけとなった。抽出グループでは、根石小学校の伝統である「読み聞かせ・PTA の声かけ隊・八柱神社の紹介」というジャンルにまとまりのない内容であったが、石川さんの「根石学区は家康に関する場所が 3 つもある珍しい学区なんだよ」とのアドバイスから、『根石学区の家康めぐり』と題して、家康の母の遺髪が残る白山神社、妻の首塚がある八柱神社、息子の首塚がある若宮八幡宮の 3 か所の紹介を行うことにした。【資料 13】の授業記録にあるように、児童 A、B ともに岡崎市民対象という目標を見失わない発言をしている。そして、話し合いの結果、「家康に関する場所が 3 つもあること」を自分たちが伝えたい良さととらえ、良さを伝える工夫について、「家康にちなんだもの」という番組の柱ができ、内容を焦点化がすることができた。児童 B の授業日記にあるように、家康について焦点化したことが今後の意欲につながった【資料 14】。

(9) さらに良い番組にするための課題を見つ けよう (学級全体で見合う)

改善点を見つけ、さらに取材・編集活動を進めた。抽出グループでは自分たちが 3 つの神社をめぐるながら、それぞれの説明をするというシナリオで番組の構成を考えた。神社から神社への移動を編集でつなぐ工夫や、神社に行った感想を入れるといった工夫が加わった。活動が進むにつれ、各グループのそれぞれの工夫が見えるようになってきた。ここで今一度、互いの番組を見合い、自分たちにはない良さを学び取ったり、アドバイスし合ったりする活動を取り入れた。学級全体で一つの番

【資料 13】 具体的な工夫についての番組会議

- C A が言ったように、自分たちもいいところが明確になっていなかったと思うから、何がいいのか、改めて考えたいと思います。
- 児 B 石川さんが言っていたみたいに、家康のことに集中するのがいいと思う。
- C 岡崎にも神社はいっぱいあるけど、ふつう首塚はないよ。
- 児 A 岡崎は家康。家康の関連は伝えやすい。
- C 家康に関係するところが 3 つもあるなんて、めずらしいんでしょ。
- 児 B 岡崎市民に伝えやすい。
- C 身近な場所に普通では知らない歴史があるのはすごい。
- 児 A じゃあ、読み聞かせと声かけ隊はやめて、家康の 3 つの神社にまとめたほうがいい。

【資料 14】 児童 B の授業日記

石川さんから、家康に関係している神社が 3 つもある学区はなかなかないと言われたので、しかも、これからは一つのこと
に集中できて番組を作れるので、前よりも工夫してしっかりとやっていきたいです。

【資料 15】 抽出グループに寄せられた感想の一部

- ①良いところ・伝わってくること
- ・根石には家康に関する場所が 3 つもあってすごいと思った。
 - ・ワープしていておもしろい。視聴者が楽しめる。
- ②直すべきところ
- ・「ぜひ来てください」と言っているのに場所が分からない。
 - ・出てくる人のことが良くわからない。
- ③タイトル「根石学区の家康めぐり」について
- ・本当にめぐっているのでふさわしいと思った。
- ④グループテーマ「視聴者が興味をもって、分かりやすい番組」と照らし合わせて
- ・3 か所も行っているから興味もてる。
 - ・説明は、分からない言葉が多かった。

組を作るという意識を再確認させたいという意図もあった。

完成も近いことから、4つの視点（①良いところ・伝わってくる②直すべきところ③タイトルについて④グループテーマと照らし合わせて）で互いの番組を見合った。抽出グループには【資料15】のようなアドバイス・感想が集まった。下線部のように説明不足な点が多く指摘された。歴史を伝える内容のため、情報量と説明の分かりやすさが必要となる。歴史を伝える難しさに気付かされた結果となった。

児童Aは、情報・説明不足であることを自覚していた【資料16】。

(10) 番組会議④再編集をして番組を仕上げよう

①良さを伝える工夫について

再び撮影・編集作業に取りかかった。「家康」という柱ができた抽出グループでは、良さを伝える工夫の具体策として、家康との関連をいかに分かりやすく伝えるかがポイントとなった。撮影計画を立てる際、番組の台本を作った。児童Aは、台本作りの中で言葉のひとつ一つに注目した。グループテーマである「分かりやすく興味をもてる番組」を常に意識し、視聴者にとって分かりやすい説明を心がけた。また、説明の言葉を改めることで、伝えたいことが明確になっているかを確認するという考えもあったのだろう。【資料17】からは、視聴者に分かりやすく伝えるために、説明の言葉にこだわる児童Aの思いが伝わってくる。

②飽きない工夫について

前に述べたように、児童Bは飽きない工夫について「視聴者への問いかけ」という具体的な考えをもっていった。抽出グループでは、児童Bの発言のもと、「視聴者によびかける言葉を使う」「神社の階段を上る様子を後ろからテレビで追う」「家康の母や息子の顔写真を入れる」という工夫を加えた。また、この工夫は学級全体のテーマ「視聴者が笑顔になれる」を意識したものだ。グループ内の「神社のことで視聴者を笑顔にするのは難しい」という意見から、具体的な工夫を考える姿があった。

(11) 視聴者はどんな反応をするのだろう

番組ができあがり、子どもたちは達成感と満足感をもっていた。目標と比べながら自分たちの番組を見直し、最終確認をする姿があった。しかし、学級テーマ「視聴者が笑顔になれる番組」が達成されたのかを不安に思う子もいた。そこで、学校の昼放送で番組を流し、全校児童と先生から感想を募った【資料18】。

【資料18】 全校児童から寄せられた感想の一部

①良さを伝える工夫に関連した感想

- ・根石小学校の良さを伝えようとしているのがわかった。 ・根石学区をアピールできていいと思いました。
- ・根石学区に詳しくない人も見たら分かるなと思いました。

②飽きない工夫に関連した感想

- ・とても分かりやすく、見る人みんなが楽しめる番組だなあと思いました。
- ・ジャンプして場所が変わるのがおもしろかった。
- ・神社のとき、「とうっ」と言って次のところに行ってかっこよかった。すごいね。

③その他（目標やテーマに関連する感想）

- ・根石学区には、家康に関係した人たちの首塚がたくさんあることが分かったので、誇らしいなと思います。
- ・私たちが住む学区には、たくさんの歴史に残るところがあるので、とてもいいところだと、改めて思いました。
- ・岡崎の有名な人物は家康だから、家康のことをやったのはよかったんじゃないかなと思いました。

全校児童から寄せられた感想を見た子どもたちは、皆うれしそうな表情を見せた。校内放送に対して、アンコールがかかり、視聴者に認めてもらえたことにさらなる達成感をもった。寄せられた感想を、①良さを伝える工夫②飽きない工夫と照らし合わせた。また、抽出グループでは学級全体のテーマ「視聴者が笑顔になれる番組」やグループテーマ「視聴者が興味をもって、分かりやすい番組」とも照らし合わせて自分達の番組について振り返った。児童Aは学級の目標と照らし合わせ、「分かりやすく興味をもてる番組という目標にしていたので、ぜひ行ってみたいと書いてあったので、興味をもってくれたと思います」と感想を述べた。また、児童Bは、②飽きない工夫に注目し「ワープするところで跳ぶところがおもしろいと書いてくれた子が何人もいたので、飽きない工夫をしてよかったし、笑顔になってくれたんだなとうれしかったです」と発言し、自分達が狙って考えた番組内容が、視聴者に伝わったことを実感できた。完成段階で子どもたちは満足感を得た様子であったが、さらに視聴者の感想を聞いて自分たちが大切にしてきた思いが伝わったことを確認することができ、さらなる達成感を味わい、今までの活動を価値づけることができた。

【資料16】 児童Aの授業日記

自分の班が直すべきところが一番多くあると思う。やっぱり情報が足りない...

【資料17】 児童Aの授業日記

2月23日

台本の言葉を表示するのに時間がかかりました。この言葉だと視聴者に伝わらなくなるのではないかと心配です...

2月25日

なるべく疑問がわからないように作るのはとっても難しいなど改めて思いました。今日も立場を変えて考えて見ました。

2月26日

3つの場所を時間内にまとめるのはとっても難しいと思う。切り捨てすぎたら、視聴者に伝わらなくなってしまうのではないかと思いました。

(12) 番組作りを振り返ろう

これまでの活動を振り返り、情報を発信者する側の苦勞について考えた。「時間がかかりたいへんでした。なので、ミクスの人も絶対に毎日苦勞しながら番組を作っているんだと思いました」「視聴者を笑顔にすることがすごく難しいことで、それを忘れたら違う方向にいつてしまうので、たくさんの工夫が必要だと分かりました」と、情報を発信する側の工夫や苦勞を感じとった感想が多く出された。児童 A は、「視聴者に分かりやすく伝えるために、言葉を考えることがとても難しかったです」と発言し、伝えることの難しさを実感していた。また、「普段普通に見ているテレビ番組がこんなに苦勞して作られていることを知り、一つひとつの番組をもっとしっかり見ようと思いました」との発言もあり、今後に生かそうとする気持ちも芽生えた。

児童 A、B は番組作りの感想を次のように締めくくった。児童 A は番組作りを通して学区の良さを再発見できたと感じている。制作当初から、ミクスの思いを受けて視聴者を岡崎市民と位置づけて活動してきた児童 A にとって、自分の地域をより大切に思うことができ、地域の良さを発信できた喜びを感じている【資料 19】。児童 B は、番組作りの中で、友達と協力できたことを実感している。【資料 8】で自分の意見を言えた喜びを感じているが、常にグループの様子を気にかけて活動をしてきた。普段は人前に立つことを遠慮する児童 B は今回副班長となってグループを引っ張った。児童 B の考えを広めることでグループの番組作りの方向性が定まった場面もあった。グループのために尽力してきた達成感も窺える【資料 20】。

【資料 19】 児童 A の授業日記

「改めて根石学区の良さが再発見できた。」と書いてくれた子がいたけど、作ったわたしたちも再発見できて、根石は本当に良いところ、自慢のふるさだなと思いました。

【資料 20】 児童 B の授業日記

編集のときの協力や、取材の時の相談、みんなと協力して話し合い、考えてる雪の絆がもっと深まったと思います。取材や編集は大変だったけど、できたときの喜びと、視聴者のうれしい感想でやってよかったと思い、すごかりがいがありました。

4 研究のまとめ

(1) 仮説の検証

仮説 1 について

手立て①…ミクス見学で聞いた石川さんの思いを自分たちの番組制作に取り入れた。また、制作途中で石川さんのアドバイスを聞いたことで、さらに意欲を高めることができた。

手立て②…一つのグループが 7、8 人になったことで、番組会議の際に全員が自分の意見を発言し、考えを交流することができた。また、撮影・レポーター・編集など、各役割を全員が行うことで生き生きと自分の役割をこなそうとする姿が見られた。

仮説 2 について

手立て③…番組制作の途中でお互いの番組を見合い、良いところ・直すべきところを考え、出し合うことで、他のグループの良さを自分のグループに取り入れたり、自分のグループを振り返ったりすることができ、個々の考えを深めることができた【資料 21】。

【資料 21】 児童 B の授業日記

テレビ日記 取材でとったビデオを見るのもまた「また」
なめはとろやもとい方法か「あつと」に合づい
たりしていたので、とったビデオなどもみん
なでみればに見てかりかえるのもいいと思
いました。

仮説 3 について

手立て④…毎時間の始めには各グループで、進行状況の確認や、地域の良さを伝える内容になっているかどうかを検討する番組会議を行う時間をとった。そうすることで、番組の方向性を見失わずに活動でき、視聴者の気持ちを意図した質の高い番組を作ろうとする姿が見られた。

手立て⑤…完成した番組の感想を聞くことで、今まで取り組んできた活動を自分自身で評価することができ、自分たちの活動の意味づけをすることができた。また、自分たちが考える地域の良さを受け入れてもらった喜びから、地域の一員として活動することのすばらしさを感じることができた。しかし、番組を見た地域の人の感想をあまり聞くことができず、情報の持つ影響力を十分に理解することができなかった。

(2) 今後の課題

本年度は、社会参画をしようとする態度の育成を目指して番組作りを行った。しかし、地域の人の願いを十分に反映させた番組作りができなかった。今後は、地域の人の考えを知る機会をより多く設けるなどして、地域の人々の思いや願いに迫る具体的な活動に取り組ませることが必要である。

5 おわりに

校内放送で番組を流したあと、6年生の日記が届いた。そこにはこの番組を見て、紹介されたすべての場所へ行き、楽しかったことや、初めて知ったことへの驚きが綴られていた。そして、「根石学区はふるさどです。思い出のつまった所がたくさん学区にあり、とっても楽しい町、学区でした。中学に行っても忘れたくありません」と結ばれていた。この日記を受けて、「放送された日にお友達と神社めぐりをしてくれてとってもうれしかったです。私は、テレビで放送されると、だれもがすごいなあと思ってくれるので、作ってよかったなあと強く思いました」と活動全体を締めくくる子もいた。子どもたちは自分たちが伝えなかった根石学区の良さが伝わったことに喜びを感じたとともに、テレビの影響力を実感したようだった。

次年度以降も、このような思いをもつ子どもがより多くなるよう、実践と研究を重ねていきたい。